

院 生 紹 介

本年度は創刊号のため院生紹介となりましたが、次年度より地域経済研究会会員の研究紹介とする予定です。

- ①研究テーマ ②著書 ③主要論文、主要学会・研究会報告
④最近の論文、学会・研究会報告 ⑤研究ノート ⑥調査報告書・シンポジウム報告書等 ⑦書評・小論 ⑧翻訳 ⑨調査活動 ⑩社会活動 ⑪職歴

注：-論は論文、-報は報告を指す。また、④～⑧については、

2003年4月～2004年9月のもの

野口 義直 (博士課程後期)

①アメリカ経済論、多国籍企業論、環境経済論、資源エネルギー経済

③-論1「米国の環境規制と多国籍石油企業-環境保護庁のガソリン含鉛規制と米国石油精製産業の構造再編」(『調査と研究』24号、2002年4月)

-論2「アメリカ自動車・石油精製企業のマスキー法への対応-触媒コンバーター・無鉛ガソリンの普及をめぐる産業間提携」(『経済論叢』168号、2001年3月)

-論3「アメリカ環境保護庁のガソリン無鉛化政策と石油精製資本」(京都大学提出修士論文)

-報1「アメリカ環境保護庁のガソリン含鉛規制と石油精製産業」(旧土地制度史学会全国大会、東京大学、1998年11月)

④-論「米国の環境政策とバイオ・エタノール産業の成長」(『経済論叢』172号、2003年11、12月)

⑩三重大学非常勤講師(産業経済論各論)2002～2004年度、大阪樟蔭女子大学非常勤講師(経済学)2004年度

中西 三紀 (博士課程後期)

①チリ農業

③-論1「チリ中央部における資本主義発展と農業構造-19世紀後半から20世紀初頭のアシエンダを中心に」(『土地制度史学』168号、2000年7月)

-論2「19世紀末のチリ農民層-なぜこの時代にチリに農民反乱はおきなかったのか」(東京外国語大学提出修士論文)

-報「チリにおける資本主義発展と農村構造-19世紀後半の中央部農村地域を中心に」(旧土地制度史学会全国大会、東京大学、1998年11月)

④-論「グローバル化とチリ農業-輸出志向型農業への転換-」(『グローバル化と現代農業』2004年12月出版予定)

-報「チリ-韓国 FTA 締結をめぐって」(農林水産省 FTA 研究会、2004年3月)

⑥「チリの輸出構造と「チリ-韓国自由貿易協定」発効後への日本の着眼点」(農林水産省 FTA プロジェクト資料 NO. 1、2004年9月)

⑨「米州の FTA 下における農業生産・貿易構造の再編とアグリビジネス転換の実証研究」(平成16年度科学研究費補助金)

⑪名古屋外国語大学非常勤講師

木原万樹子 (博士課程後期)

①教育財政

③-論「戦後教育行財政改革」(京都大学提出修士論文)

④-報「義務教育行財政制度確立過程-1950年代前半を中心に」(地域経済研究会、京都大学、2004年5月)

⑩平成16年10月大阪弁護士会登録(木原法律事務所所属)

水島 和哉 (博士課程後期)

③-論「戦間期の都市商業構造と反百貨店運動」(京都大学提出修士論文)

-報「戦間期京都の都市形成と小売業の構造変化」(旧土地制度史学会、中央大学、2000年10月)

藤本 晴久 (博士課程後期)

①アメリカ農産物貿易政策、農業経済論、アメリカ経済論

③-論「米国における農産物貿易政策の新展開～HVP 輸出政策の成立・展開を中心に～」(京都大学提出修士論文)

-報「米国の高付加価値農産物(HVP)の輸出政策-1980年代以降の展開を中心に」(日本農業市場学会、名古屋大学、2001年6月)

④「米国における農産物・食品貿易政策の新展開-高付加価値生産物(High-Value Agricultural Products:HVP)輸出政策を中心に」(『農業市場研究』第12巻第1号(通巻57号)2003年6月)

⑥「京都の朝市等農産物直売所に係わるアンケート調査報告書-直売所の情報戦略-」(京都ふるさとセンター、2004年3月)

⑩京都府農業会議(京都ふるさとセンター)

宇都宮 千穂 (博士課程後期)

①都市形成史・日本近現代史・地域経済論

②-1「戦後京都市における銭湯と生活空間の変化」(岡田知弘編『京都経済の探求(仮題)』高菅出版、2005年掲載予定)

-2「経済編・酒造業」(西宮市『西宮現代史(資料編)』第3巻、2004年12月刊行予定)

④・論「新居浜における住友資本の事業展開と都市形成過程」
 (『歴史と経済』第184号、2004年6月)

・報「書評：暉峻衆三編『日本の農業150年』有斐閣、2003年」(地域経済研究会、京都大学、2003年7月)

③・論「戦間期新居浜における都市形成過程—住友の事業展開との関連を中心に—」(京都大学提出修士論文)

・報「住友の事業展開と新居浜の形成」(旧土地制度史学会全国大会、岩手大学、2001年10月)

⑩西宮市史編集事業(専門委員)

⑪大阪経済法科大学非常勤講師(2004年度)

遠藤 環 (日本学術振興会特別研究員[PD]/東南アジア研究所)

①タイ都市経済論、インフォーマルエコノミー、地域経済論

③・論「タイにおける都市貧困政策とインフォーマルセクター論」(京都大学提出修士論文)

・報1「タイにおける都市インフォーマルセクター促進政策：都市貧困政策からの検証」(国際開発学会全国大会、上智大学、2002年12月)

・報2「From Formal to Informal? : Life Course of Female Workers and Global Restructuring in Thailand」, International Conference on "Gender, Development and Public Policy in an Era of Globalization", Asian Institute of Technology, Thailand, 17-18 May 2004

④・論「タイにおける都市貧困政策とインフォーマルセクター論：二元論を超えて」(『アジア研究』第49巻第2号、2003年4月)

⑤・翻訳 Doyal & Gough, A Theory of Human Need, The Guilford Press, 1991 第5章/第11章担当。

①学術振興会特別研究員[DC1](2001年4月~2004年3月)、学術振興会特別研究員[PD](2004年4月~)、チュラロンコン大学客員研究員(2003年6月~)

三重 遷一 (博士課程後期)

①イギリス住宅政策史、住宅問題、土地問題

②「京都の住宅問題—都心回帰とマンション居住」(岡田知弘編『京都経済の探求(仮題)』高菅出版、2005年掲載予定)

④・報「京都の住宅問題—都心回帰とマンション居住—」(くらしと協同の研究所、2004年1月)

⑤「現代日本の住宅政策の課題」(立命館経済学、第53巻特別号、2004年前期)

③・論「リースハウルド解放運動と住宅問題—19世紀後半イギリス都市問題に関する一考察」(和歌山大学提出修士論文)

・報「19世紀末イギリスにおける都市住宅問題論争」(旧土

地制度史学会全国大会、千葉大学、2002年10月)

⑦「背が高いのは七難隠す?」(住宅政策研究会編『現代日本の住宅政策:サステナブル都市居住に向けて』自治体研究社、2005年3月刊行予定)

⑩(社)京都自治体問題研究所

⑪立命館大学経済学部非常勤講師(2004年度)

渡邊 英俊 (博士課程後期)

①アルゼンチン経済史 大西洋経済史

③・論「セントラルアルゼンチン鉄道設立とイギリス資本」(京都大学提出修士論文)

・報1「セントラルアルゼンチン鉄道と農業開発—供与地開発初期方針についての検討を中心に—」(土地制度史学会近畿部会、滋賀大学、2001年11月)

・報2「19世紀後半アルゼンチンにおけるイギリス鉄道資本と土地開発—セントラル・アルゼンチン鉄道を中心に—」(土地制度史学会全国大会、千葉大学、2002年10月)

④・論「19世紀後半アルゼンチンにおけるイギリス鉄道資本と沿線地開発—セントラル・アルゼンチン鉄道を中心に—」(『歴史と経済』第185号、2004年10月)

織原 泰 (博士課程後期)

①農業経済論、地域経済論、地域社会論、自治体論

②(社)大阪自治体問題研究所/関西地域問題研究会編著『関西再生への選択-サステナブル社会と自治の展望-』(共著)2003年12月、自治体研究社

③・論1「稲作経営受委託の現段階と地域労働市場—新潟県蒲原平野を事例として—」(修士論文)

・論2「稲作経営受委託の現段階と地域労働市場—新潟県蒲原平野を事例として—」(『大樟論叢』第20号、1984年3月、)

・論3「精神障害者世帯へのホームヘルパー派遣をめぐる諸問題—公的ヘルパー制度確立のための国・自治体の課題」(『大阪自治体問題研究所研究年報③介護保険』2000年7月)

・報「精神障害者世帯へのホームヘルパー派遣をめぐる諸問題—研究序説」(日本社会福祉学会、明治学院大学、1998年10月)

④・論「自治研活動にみる大阪の活力—『白書』づくり運動を中心に」(『経済科学通信』No. 104、2004年4月)

・報「書評：安藤光義著『構造政策の理念と現実』農林統計協会、2003年」(地域経済研究会、京都大学、2003年11月)

⑩羽曳野市まちづくり調査、門真市まちづくり調査、松原市まちづくり調査

⑪(社)大阪自治体問題研究所主任研究員、神戸大学発達科学部非常勤講師(「自治体論」)

植木 洋 (博士課程後期)

- ①外国人労働者問題
- ③「フランスにおける移民政策の転換と外国人労働者」(京都大学提出修士論文)

名和 洋人 (博士課程後期)

- ①アメリカ合衆国における水資源開発事業
- ②「日吉ダム建設の要件－水源地域対策と事業費負担－」(岡田知弘編『京都経済の探求(仮題)』高菅出版、2005年掲載予定)
- ③-論「カリフォルニア州における水資源開発事業の成立と展開－セントラルバレー・プロジェクトを中心に－」(京都大学提出修士論文)
 - 報「カリフォルニア州における水資源開発事業の成立と展開－セントラルバレー・プロジェクトを中心に－」(土地制度史学会全国大会、千葉大学、2002年10月)
- ⑤「日吉ダム建設の要件:水源地域対策と事業費負担」(KUES Ph.D. Candidates' Monograph Series, No.200404033, 2004年).
- ⑥『平成15年度「田畑売買価格等に関する調査」の結果(報告)』(京都府農業会議、2004年3月)
- ④-報「カリフォルニア州における水資源開発事業の成立と展開－セントラルバレー・プロジェクトを中心に－」(経済史研究会、京都大学、2004年7月)
- ⑦-1「書評:小泉武夫『日本の味と世界の味』岩波書店」(『協う』第77号、2003年6月)
 - 2「特集:食農教育最前線－生産地の食農教育、消費地の食農教育－」(『協う』第80号、2003年12月)
 - 3「暮らし・人・地域・モノ－かんかん森に見る都市コミュニティの再構築－」(『協う』第84号、2004年8月)
- ⑩西宮市農業振興計画基礎資料調査報告書(作成業務)、京都中小企業家同友会(景況調査・特別調査)、くらしと協同の研究所(院生事務局)
- ⑪太陽コンサルタンツ株式会社(1995年4月～1998年8月)

三輪 仁 (博士課程後期)

- ②「京都の映画産業」(岡田知弘編『京都経済の探求(仮題)』高菅出版、2005年掲載予定)
- ③-論「地方民間放送局の創設過程とメディア資本－ラジオとテレビ二つの開局を中心に」(京都大学提出修士論文)
 - 報「地方民間放送局の創設期について－小エリア放送局の設置を中心に－」(日本地域経済学会全国大会、北海学園大学、2003年9月)

山崎智博 (博士課程後期)

- ①地域経済論
- ③-論「『神都計画』の構想と実際－三重県宇治山田市を中心に－」(京都大学提出修士論文)

関根 佳恵 (修士課程2年)

- ①アグリビジネス論、農業経済学
 - 修論題目「日本における多国籍アグリビジネスの事業展開－ドールの野菜事業を中心に－」
- ④-報1「フィリピンにおけるマンゴーの生産・流通とアグリビジネス」(地域経済研究会、京都大学、2003年5月)
 - 報2「書評:暉峻衆三編『日本の農業150年』有斐閣、2003年」(地域経済研究会、京都大学、2003年7月)

孫 戈 (修士課程2年)

- 修論題目「現代中国における農村労働力人口の移動」

畢 加娜 (修士課程2年)

- 修論題目「上海市における労働市場と賃金に関する一考察」

李 海波 (修士課程2年)

- 修論題目「中国における地方行政組織の再編－郷鎮を中心に－」

大貝 健二 (修士課程1年)

- ①地域経済・産業
- ④-報1「高知県清酒製造業の現段階－歴史的変遷と独自化の歩み－」(地域経済研究会、京都大学、2003年5月)
 - 報2「書評:暉峻衆三編『日本の農業150年』有斐閣、2003年」(地域経済研究会、京都大学、2003年7月)
- ⑩西宮市農業振興委員会(調査員)、京都中小企業家同友会(調査員)、京都経済研究会(事務局)

2004 年度 地域経済研究会
新 規 会 員 紹 介

本年度新入会員の自己紹介です。

藤田 泰男 (大阪市立大学大学院西村ゼミ D2)

経済のグローバル化が進む中で、多くの日本の都市は産業空洞化という新たな都市問題に直面していますが、内発的発展論の視点から大都市の地域再生について、神戸市の都市経営を中心に考えてみたいと思っています。

李 妍蓉 (京都大学大学院岡田ゼミ 研究生)

来年 6 月に中国の大学院を卒業見込みです。今年岡田ゼミに入り戦後の日本の都市化と農地転用をテーマに研究しています。この研究テーマをやり続けたいので、再来年の 1 月の博士編入試験を目指してがんばりたいと思います。

井上 智恵 (京都大学大学院岡田ゼミ M1)

大貝 健二 (京都大学大学院岡田ゼミ M1)

出身は？と聞かれても、広島で 8 年、千葉で 10 年、高知で 4 年、そして京都で 2 年目の私は、とりあえずいろんな意味で思い入れの深い高知を出身としています。研究に関しては、地域経済とそれを支えている産業に対する政策の変遷を捉え、またそれら政策のあり方を模索していきたいと思っています。

郭 思宜 (京都大学大学院岡田ゼミ M1)

前年度は「台湾の二酸化炭素削減計画とその実態」について研究を行いました。聞き取り調査も用いて、台湾の温暖化対策において、広い視野からその実態について探求することができました。今後の研究については、水力、火力、原子力など台湾のエネルギー政策の内容を個別に検討していきたいと考えています。

クリストファー・ラムリー (京都大学大学院岡田ゼミ M1)

私は、日本とオーストラリアの間の貿易・経済交流とその将来への変動について研究しようと思っています。その際に、この背景にある、オーストラリアの日本へのウラン・石炭などのエネルギー資源輸出と日本のエネルギー対策の経済的分析や、これを影響される中国へのオーストラリアのエネルギー資源輸出や京都議定書などの分析も行うことを考えています。また、オーストラリアと日本の間の東南アジア・南太平洋の安全保障政策等にも関心があります。

徐 陽 (京都大学大学院岡田ゼミ M1)

性格が明るく、愛国心が強い中国の好青年です。2002 年 10 月に中国の大学を卒業してすぐに来日し、一年半の研究生生活を終え今年の四月にやっと大学院に漕ぎ着けました。現在地域経済が主流である岡田ゼミで修行中。研究テーマは日

中両国の農業（農家）の共同発展ですが、今 日中両国の農家の協力パターンを模索中です。今後いっそう気を引き締めて頑張っていく覚悟です。よろしく！

銭谷 奈津子 (京都大学大学院岡田ゼミ M1)

竹内 祐介 (京都大学大学院堀ゼミ M1)

歴史認識として、一国史的認識の中ではそれぞれの特異性が強調されがちになりますが、そうした枠を越え、新たな歴史認識のあり方を模索していくことを将来にわたっての研究の目標としていきたいと思っています。

倪 卉 (京都大学大学院岡田ゼミ M1)

倪卉 (ニキ) と申します。中国北京からの留学生です。現在岡田ゼミマスター 1 年です。これから繊維産業、特にシルクなどの天然繊維分野を研究テーマとして研究したいと思いません。